

1. 南風原小学校 算数科の授業

令和5年1月24日(火)、南風原小学校で算数科の授業を参観する機会をいただきました。授業者は、島尻教育研究所後期研究委員の松茂良忍先生です。松茂良先生とは、校区内小中学校で算数・数学を軸に小中連携しようと、闘志を燃やしている熱い仲です。



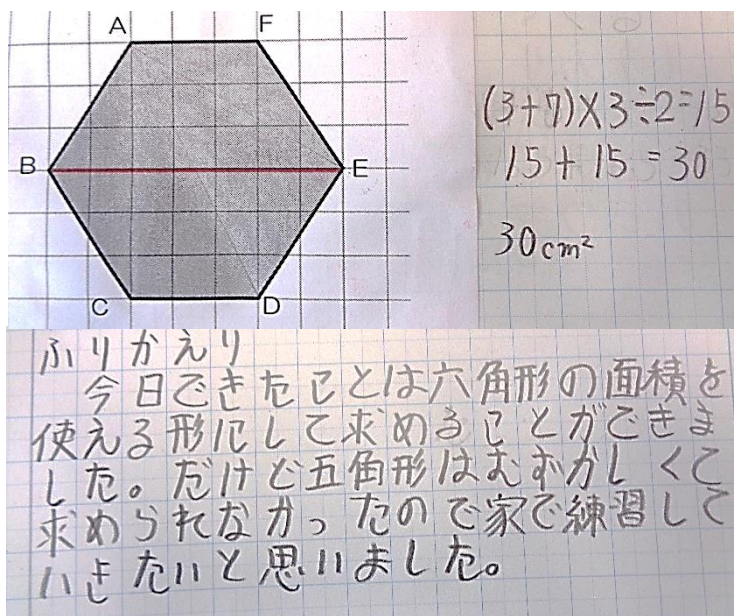
2. 授業 第5学年「四角形と三角形の面積」

本時は、『ゆうほ先生の五角形と忍先生の六角形では、どちらが広い?』という問いに対して、児童が図形の性質に関する既有知識を活用して面積を求めたり、説明したりすることが目的です。

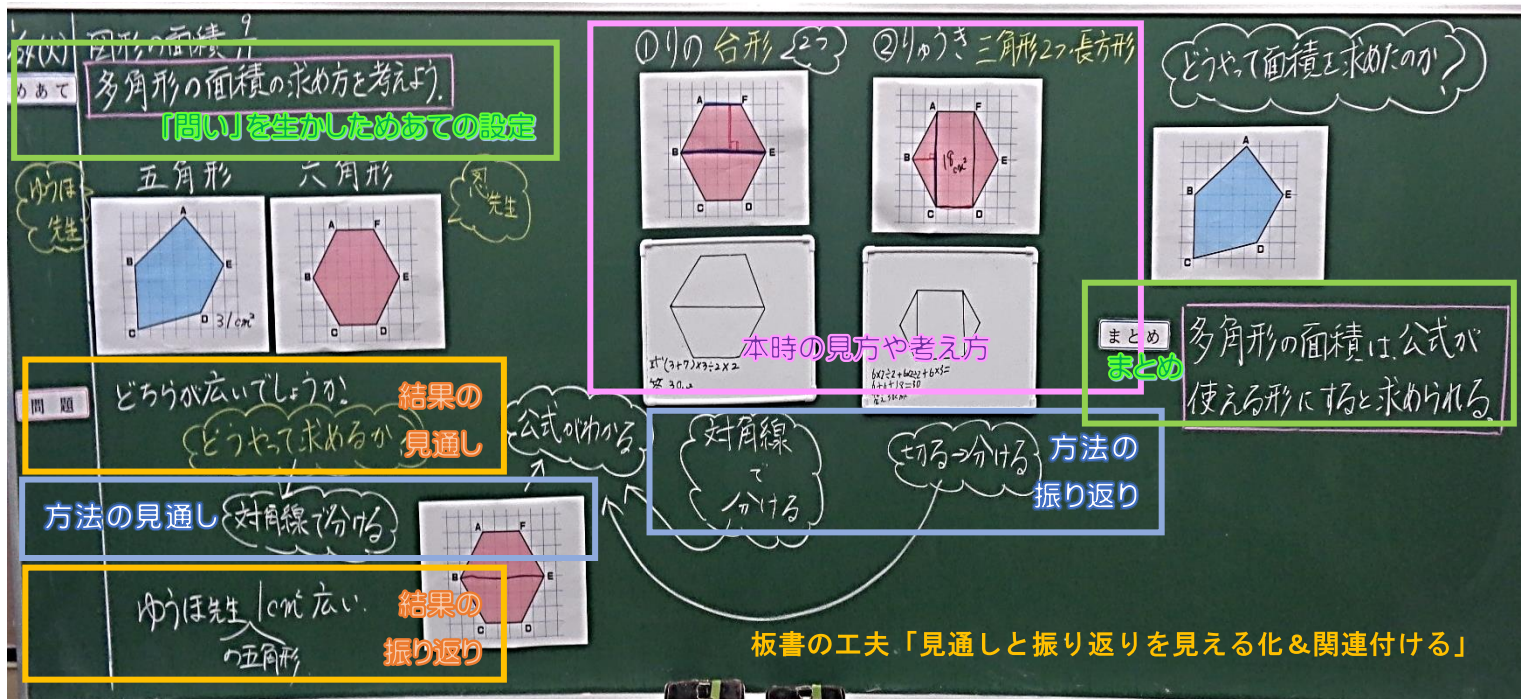
松茂良先生の授業で大変参考になったのが、研究のサブテーマである『児童の問いを引き出す指導の工夫』です。導入場面では、1学期に学習した多角形や、これまでに学んできた様々な図形の公式を振り返り、『どっちが広い?』、『どうしたら広さ比べができる?』などと、児童に共感しながら結果と方法を見通す場面が設定されていました。また、松茂良先生の発問や問のとり方も絶妙で、児童の思考をタイミングよくつないでおり、児童同士で学びを深めるといった「思考のつなぎ合い」を直に観ることができました。

改善の余地があるとすれば、本時では、多くの児童が、すぐに六角形の面積を求めることができてしまったので、五角形の面積を求める活動に焦点化すると、さらに深い学びが期待できたかもしれません。なぜなら、五角形では、分割の方法次第では、斜めの辺が出てきてしまうので、児童自身が底辺と高さを探したり、斜めの辺を実測したりするなどの Trial&Error する姿が期待され、松茂良先生の研究テーマである「学びに向かう児童の育成」に一層つながったかもしれません。

私自身も、授業づくりでいつも悩むところで、匙加減が難しいところですが、時にはルールを敷き、時には自由に運転させるなど、授業の主体を児童に与え、学びに向かう算数・数学科の授業づくりに励んでいきたいです。松茂良先生、ありがとうございました。



Kさんのノートと振り返り(五角形を家で解きたい!)



板書の工夫「見通しと振り返りが見える化&関連付ける」